

中津川市多文化共生推進基本方針(案)の意見募集の結果について

ご意見内容と市の考え方(回答)について

区分	意見内容(要約)	市の考え方(回答)
2(2)本市における外国人住民の状況	<p>・人口減少はいけないことなのか。</p> <p>・「モノづくりの盛んな中津川市」とは工業と解しているのか。市の基本的な姿勢はこれでいいのか。</p>	<p>・この区分では人口減少を問題視しているのではなく、総人口が減少しているのに対して、外国人住民の方が増加しているため、その占める割合も増加している事実を確認しています。それ故、外国人の方との共生がさらに重要となると考えられます。また、人口減少は経済活動の減速や地域行事やイベントの消滅につながるなど地域の活力低下につながる要因の一つとされています。</p> <p>・工業製品はもちろん中津川市には多くの製造業者があり、たくさんの方がそこで働いておられます。またその技術は高く、評価されるものであり、市では主要な産業として振興を図っているところです。</p>
3(2) アンケート結果の概要	<p>・外国人労働者からの心配事、相談事で「特になし」が46%というのに驚きました。言葉が通じず相談できないのではないかと。</p>	<p>・外国人労働者の実態を把握するうえでアンケートは有効な手段であります。しかし、外国人を対象とするアンケートは目的や内容がしっかりと伝わるようにする必要があると考えます。また、意思を伝えていただくことに関しても、多言語への対応が必要となるアンケートは、人的にも費用的にも非常に難易度が高いものと捉えています。今後、県や他市の事例等を参考に外国人を対象とするアンケートの実施について研究していきます。</p>
3(3)本市の実態から見えてくる課題	<p>・「情報提供」と、いろいろなページでみられるが、「提供すれば良い」と感じられる。提供をどのようにするのか。パンフレットを配布して終わるでは、配布を受けた団体等で困っている。</p> <p>・「地域住民の理解」は、具体的にどうしていくのか。</p>	<p>・外国人住民の方と直接つながりのある団体等にパンフレット配布等のご協力をお願いさせていただいていることには県も市も大変感謝しております。ホームページ等に各種情報の掲載がありますが、興味をもっていただかないとなかなか見てもらえないのが現状です。情報の提供方法や周知については今後も様々な方法等を模索していきます。</p> <p>・広報紙やホームページ、講演会や区長会をとおして地区住民の方に周知していきます。また外国人住民の方自身にも日本、あるいは自分とは違う国のことを理解することの必要性を周知していきます。</p>
4 (3) 施策の基本的な考え方と取り組み	<p>・市から保険料の通知等、何の通知か理解できない。日本語のわかる人と同席して説明を受けないとわからない。</p> <p>・病院に行くのに日本人の付き添いが必要。市役所や病院に通訳がいて欲しい。</p>	<p>・日本人の方にもわかりやすい説明文書の作成を窓口各課に呼び掛けていきます。また、やさしい日本語の周知等についても取り組んでいきます。</p> <p>・現在、中津川市には約30の国籍の方が住民登録して見えます。それぞれの国籍毎に通訳を常駐させるのは難しいと考えております。翻訳機等の設置と活用により対応するとともにやさしい日本語の周知にも取り組んでいきます。</p>

	<p>・中津川市の自動車学校で外国語の試験を受けられるようにして欲しい。</p>	<p>・需要と供給のバランスもあるかと思っております。ご要望等はしかねますが、近場で対応している試験会場等の情報提供に努めていきます。また、実際に日本で運転されることを踏まえ、安全のためにもやさしい日本語の理解等の必要性を周知してまいります。</p>
<p>全般</p>	<p>・外国人に求めることがほとんどで、市や企業が具体的にどうするのか。 ・今後の方向性、基本的な考え方と取り組みとしては漠然としている。</p>	<p>・今回は基本方針のため方向性を示しています。具体的なことについてはこの基本方針に基づき、委員会や庁内関係各課とも協議をすすめて取り組んでまいります。 ・外国人の方だけでなく受け入れる地域側の理解等の向上についても図ってまいります。</p>
	<p>・策定にあたり先進地の視察はされたのか。(可児市などはぜひ参考にしてほしい)</p>	<p>・先進地である可児市や美濃加茂市に伺い、資料等も頂戴しました。人数や割合も当市とは比較にならないほど多く、また在留資格の種別も永住者や定住者が多く当市とは傾向は違うものの具体的なことを検討する際の参考としてまいります。</p>
	<p>・外国人向けのアンケートと自治会へのアンケートを実施するべき。</p>	<p>・今後、窓口等で上がってくる問題点等への対応を含めてより具体的な取り組みを実施するために、アンケートの実施も検討させていただきます。</p>
	<p>・コロナ禍の状況下、実習生の勤労状況や語学力が心配です。個人の厚意だけでは限界があります。公的機関等が協力し、脆い立場にある方々を支援する体制を検討して欲しいです。</p>	<p>・現在のコロナ禍の状況ではご意見のような心配があることは事実です。県や企業および関係団体等と連携し、支援情報の伝達等に努めてまいります。</p>
	<p>・高齢化で自治活動が成立していないところに若い外国人に参加してもらおうといい。 ・一緒に何かするといい。企業も積極的に参加してもらおうといい。 ・急病の時など地域住民に助けを求め。 (企業は駆けつけるのに時間がかかる) ・山林や森林整備、鳥獣害狩猟に外国人に参加してもらおう。 ・市と市民にもっと外国人に関心をもってもらおう。</p>	<p>・外国人の方との係わりに関する様々なアイデアをありがとうございます。今後の多文化共生の取り組みを展開するうえでの参考にさせていただきます。</p>